

患部を撮影、3D画像に

脊椎など 手術の安全性向上、負担減

上山・みゆき会病院が新装置導入



みゆき会病院が新たに導入した「O-armイメージングシステム」
＝上山市（同病院提供）

導入したのは医療機器製
造販売の日本メドトロニッ
ク（東京都）の「O-arm
イメージングシステム」。

上山市のみゆき会病院は、脊椎などの手術で使用する最新の移動型X線透視装置を導入した。短時間で患部を撮影して3D画像を作り、手術中に骨の位置や状態を従来よりも正確に把握できる。同病院によると、県内では初の導入で、手術の安全性が向上し、時間短縮することに加え、放射線を当てる回数が一度で済むことから負担軽減の面で医療従事者と患者の双方に利点があるとしている。

これまでは骨の位置などをさまざまな視点で確認するため、手術中に2D画像を複数回、撮影する必要があったが、新装置は一度の操作でX線を照射する機器が360度回転し、約13秒で400枚ほどの画像を撮り、素早く精密な3Dデータを提供する。

データは同じく新たに導入した手術支援ナビゲーションシステムに送信され、モニターには患部とともに骨の固定器具を挿入する仮想線などが示される。一人一人の骨の形に合わせて正確に手術を進めることが可能となり、挿入ミスや再手術のリスクを減らすことができるという。

対象となるのは脊柱側彎症や腰椎椎間板ヘルニアなどの手術で、健康保険が適用される。同病院を運営する社会医療法人みゆき会の武井寛理事長は「手術の正確性が向上し、負担も減らすことができるため、積極的に活用していきたい。先行事例を参考にしながら応用も検討していく」と話している。

（手塚秀雄）